

# 地域の魅力+防災マップ

## アイディア

デジタル防災マップの応用

## 主な対象

小中学生，高校生，地域で防災や観光に携わる方，など

## 概要

防災ヤットサーシステムのデジタル防災マップ作成を使って，防災情報だけでなく地域の魅力を発信するマップを作成します。作成した地域マップは，公開対象の指定により，インターネットを介して誰でも閲覧できるようになります。

防災ヤットサーアプリ（スマートフォン）を使うと，撮影画像に自動的に位置情報をつけてシステムに投稿できるため，地域マップを効率的に作成できます。

## 準備・手順

### (1) 地域マップの作成

アプリを使う場合，GPS を有効にして「防災情報登録」を選択し，画像撮影してください（図 1）。画像にはカテゴリやキーワードを設定することができます（観光情報を投稿する場合は「その他」を設定してください）。防災情報（画像）は，投稿（撮影）場所の緯度経度が自動的に付加されて投稿されます。

防災ヤットサーシステムからも防災情報を投稿できます。システムのメニューから「みてみよう」を選択し，マップ上で右クリックして「防災情報を登録」を選択します（右クリックした場所に防災情報が登録されます）。予めデジカメなどで撮影した画像を登録できます。アプリを使って投稿した場合，システム上で防災情報を編集して，説明文を加えると良いでしょう。

### (2) 地域マップの閲覧

防災ヤットサーシステムで地域マップ（投稿した情報）を閲覧します（図 2）。公開対象を「全体」にすることで，インターネットを介して誰でも地域マップを閲覧できるようになります（一部の防災ヤットサーシステムのユーザだけに公開することも可能）。設定によっては，防災情報についてコメントをつけたり，評価したりすることもできます。



図 1 防災情報登録アプリ



図 2 防災ヤットサーシステムでのマップ（投稿した情報）閲覧画面

## 期待される効果

防災マップは主に危険箇所を示すために使われます。これはとても大事なことです。危険箇所ばかり見えるのでは，地域の魅力が伝わりません。防災ヤットサーを地域の防災+魅力を伝えるメディアとして活用してもらうことで，地域住民だけでなく観光客に対しても，危険箇所を知ってもらう上で，地域の魅力（観光スポット，ご当地料理や名産品）も十分に知ってもらうことができます。

地域マップの作成を通じて地域を再発見する，という教育プログラム（例えば，地域の情報を ICT でいかに伝えるか，という情報リテラシ）としても期待されます。